



べっこう  
鼈甲

かんざし  
簪などの鼈甲細工は、江戸時代の武家階級の女性には憧れの存在であった。艶のある銚色には現在も変わらず惹かれるものがある。



まきえ  
蒔絵

漆の上に金銀粉を蒔き紋様を表す。ヨーロッパでは、漆器は「japan」と呼ばれ多くの人を魅了した。



亀甲生地帯止兎の図



木台櫛朱地更紗模様



お宮参り着物

氏神様に、家族の一員として初めて挨拶する時に着用する。掛け着の文様には、子どもの成長を願う家族の祈りが込められている。

## 博物館から皆様へ

# ファッションカタログをお届けします

皆様が「服飾（ファッション）」を意識するのはどのような場面でしょうか。遊びに行くとき、仕事、卒業式や入学式など様々な場面があることでしょう。流行のファッションや着こなし術は、様々なメディアを通じて情報発信され、私たちの興味をそそっています。

しかし、ファッションに関心を抱くのは現代人だけではありません。1000年以上昔から服飾に関する法令・日記・絵画が遺されてきました。

これを見ると服飾には、公私の区別や職業、地位や役職といった「社会的な意味」や、七五三や成人、結婚や還暦などの「人生の節目」を意識づけることがわかります。

今回の企画展では、「ファッション」の華やかさを見て楽しむことはもちろん、服飾がもつ役割や込められた想いに触れる機会となれば幸いです。



背中に注目！  
特別仕様を展示



消防士制服

木更津市消防長の制服。階級を示すのは、腕のモールと金色の星。